

名古屋丸の内ロータリークラブ Weekly Report

長谷川龍伸 会長 年度テーマ
=ロータリーの誇りを胸に、前進しよう=



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

創立 1995年3月9日
承認 1995年3月28日
会長 長谷川龍伸
幹事 松尾雄二郎
事務局 名古屋市中区栄3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007号
TEL 052-263-1324
FAX 052-263-0730
Mail rc.nagoya-marunouchi@waltz.ocn.ne.jp
HP <http://www.nagoya-marunouchi-rc.org/>

例会場 名古屋クレストンホテル TEL 052-264-8000
例会日時 木曜日 12:30
クラブ会報広報委員長 大岩とよみ

2011-12年度RI会長
カルヤン・パネルジー

第779回 例会No. 9 平成 23年9月8日(木) 晴	
西名古屋分区 ガバナー補佐訪問	
■ ローターソング	「我等の生業」
■ 出席報告	会員45名中31名出席
■ 出席率	73.81% 出席計算人数 42名
■ 修正出席率	8月25日95.23%
■ スピーカー	西名古屋分区ガバナー補佐 三浦和人様
■ ゲスト	地区副幹事 倉地伸幸様 分区幹事 白藤憲雄様
■ ビジター	名古屋RC 野口 宏さん

会長挨拶 長谷川龍伸

本日の例会は、三浦和人ガバナー補佐、倉地伸幸地区副幹事、白藤憲雄分区幹事をお招きしております。ガバナー補佐はじめご来賓の方々には、当クラブをご訪問いただき、誠にありがとうございます。

三浦ガバナー補佐は弁護士の方ですので、普段いろいろな場面でお世話になっております。今日はロータリークラブでお会いする、しかも会長としてお会いするというので、非常に照れくさい気持ちがありますが、この機会に、当クラブを存分にご覧いただき、ご指導いただきたいと思っております。

台風12号は紀伊半島を中心とする広い地域に大きな被害をもたらしました。まだ行方不明者もたくさんいらっしゃるようです。被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

台風が接近していた先週の日曜日に、愛知県美術館で開催されていた棟方志功展が閉幕しました。入場者が5万人を超える盛況だったそうです。棟方志功は青森県出身の版画家で、今回の展覧会も「東北復興支援企画」と銘打ったものでした。当クラブで8月にねぶた祭りに行ったことが思い出され、閉幕間際に行きまして。

棟方志功というと、分厚いめがねをかけ、頭にはまきを巻き、顔を木にこすりつけるようにして彫刻刀で彫っている映像を小さいときにテレビで見たことがあり、その印象が強烈に残っております。青森県の津軽の出身で、若いときにゴッホの絵を見て画家を志し、東京に出てきて活動をされたそうです。「わだば日本のゴッホになる」という言葉が有名です。

版画は黒一色の作品もありましたが、多くは原色をそ

のまま使った派手な色合いのものでした。ねぶた祭りの山車が豪華で極彩色の飾り付けがされていることは有名ですが、棟方志功が幼いときに見たねぶた祭りの色の記憶が、その作品の色にも生かされているのだそうです。

また、作品の中に「ねぶた運行連々絵巻」という約17メートルもある絵巻物があり、見ているとねぶた祭りに行ったときの興奮がよみがえるようでした。

それらの作品を見て、幼いときの体験やふるさとの記憶といったものが、芸術家の創造力の源になっていることを実感させられました。

東日本大震災からちょうど半年経とうとしていますが、東北地方の復興はまだまだ進んでおらず、これからが正念場だと思います。私たちは東日本大震災の復興支援という位置づけで青森の家族旅行会を企画しましたが、これからもニコボックスの一部を復興支援の義援金にあてることを含め、自分たちにできることを見つけて実行していきたいと思っております。

ニコBOX

ガバナー補佐 三浦和人 様
地区副幹事 倉地伸幸 様、分区幹事 白藤憲雄 様
ガバナー補佐訪問に参りました。

●本日は「ガバナー補佐訪問」です。ガバナー補佐 三浦和人様、地区幹事 倉地伸幸様、分区幹事 白藤憲雄様、ようこそお越し下さいました。会員一同より歓迎申し上げます。宜しく願い致します。長谷川会長、松尾幹事、安江、柴田孝一、立石、矢野雄嗣、大岩、若原、岩田、後藤、西垣、柴田達志、藤田、水野、堀江、成田、森田、長谷川、高山、加藤久明、和田直美(敬称略)

加藤満男さん 誕生祝に高級のワインをいただきありがとうございました。満 77 歳になりました。最近、お陰様で少し元気になりました。皆様のおかげと感謝しています。

西川さん 先日は家内に誕生祝の花を有難うございました。(9/1 ウィークリーの写真です)



加藤久明さん 今月は私の誕生月です。お祝いを有難うございます。

●100%未達成 大塚さん

本日合計 66,000円

幹事報告

1. 本日例会後にガバナー補佐をお迎えして「クラブアッセンブリ」がございます。該当の方はご出席お願い致します。
2. 次週「親睦夜間例会」は三遊亭とん馬師匠の落語をお楽しみ下さい。ご家族・ご友人もお誘い下さい。

米山功労者 表彰

会員 岩田 宏さんが米山特別寄付をされ、米山功労者として感謝状が届きましたのでお渡しいたしました。



カンボジア事業 診療所レポート紹介

国際奉仕委員長 高山 進クラブで支援しているカンボジア・コンポット州の診療所から毎月医療活動状況のレポートが届いていますので紹介いたしました。



ガバナー補佐 講話

西名古屋分区分ガバナー補佐 三浦和人
「今年度の地区方針について」

今年度2760地区 松前憲典氏の地区方針について

- 1 国際ロータリーの今年度のテーマ
～こころの中を見つめよう博愛を広げるために～
第一 強い家族を築くこと
第二 私達が一番得意とすることを継続し、変える必要があることを変える。
(安全な水の提供、疾病の診断、学力の普及、新世代のための活動、平和への協力といった活動の継続です。)
- 2 松前ガバナーの方針

国際ロータリーのテーマを基礎に「**会員増強とクラブの活性化**」で、

- その内容は、
- 1 退会防止
 - 2 女性会員及び若手会員の増強
 - 3 30名以下クラブの増強
 - 4 クラブ会員の多様性

そのため、重点項目として

「社会貢献をする」

「ゆったりとおおらかに生きる」

まとめますと、

- 1 「会員増強とクラブの活性化」
- 2 「社会貢献をする」
- 3 「ゆったりとおおらかに生きる」

の三点だと思います。クラブ内でよろしく御協議をいただくようお願い致します。



3 東北大震災について

現在、被災ロータリーは45クラブと聞いていますが、会員及び御家族の人的被害は大変だと思います。

企業の損失も大きいと思われます。被災地の復興と、被災ロータリアンの一日も早い事業の再開を願わずにはいられません。

日本のロータリーとしては、ファイブ・フォー・ワンといった5つのクラブで 被災した1クラブを援助するという取り組みが始まりつつあります。

今後、更に色々な要請がなされると思いますがよろしく御協力お願い致します。

4 最近、福島原発に関する被害の補償の制度が立法化されたとのことです。

最近、毎日のように放射能汚染米のニュースとか汚染された牛肉関係のニュースが多いようです。廃棄処分された牛もあるようです。東北の農家、牧農家は、その経営が大変だと思われます。

別紙資料4をご覧ください。これは、アエラの8月15日号で掲載されていた記事ですが、福島原発で放射能汚染を受けた地域に存在するゴルフ場です。

ゴルフ場の表土を3～5センチ剥ぎ取り、汚染を除去するためには、50キロメートル圏内のいわきプレステージゴルフ場では、68億円程かかるの見積もりです。現在、営業中止しているゴルフ場は50キロメートル圏内で5カ所となっています。80キロメートル圏内には、33カ所のゴルフ場があります。

資料5にあるように、ゴルフ会員権の価格は下がって

ます。これは、会員権を持つ会員の被害でもあります。これらの被害を全て補償するとすれば何十兆円ものお金が必要となります。地震と津波の被害回復にも当然、10兆円から15兆円のお金を必要とします。東電の純資産は、2、3兆円と言われています。当然、不足分は国が税金から支払うことになります。国の税収は、40兆円程ですので、現在被害の回復と被害の補償だけで1年間の国の税収に近いと思われる。

5 最近、イギリスでの暴動が各都市に広がったという報道がされています。イギリスのキャメロン政権は、国の財政を建て直すため支出をカットしており、そのため社会福祉の施設が各所で閉鎖されています。警察への予算も20パーセントカットとのことで、イギリスへの旅行も気を付けなければならない状況です。

資料2はその関連でのエコノミストという雑誌の表紙ですが、アメリカ、ヨーロッパも財政規律を建て直さないと日本みたいになる、要するに長期停滞の経済となり最後には財政破綻となる。そのためには、アメリカもヨーロッパ、特にスペイン、イタリア等がドイツの指導の下、強力に財政再建を進める必要があるとの記事とその内容を象徴する表示です。

6 イギリスでは公的福祉の予算を大幅にカットすると同時にその一部を民間のNPO、NGOの機関に委ね、社会福祉の一定範囲、民間でカバーするように進めているようです。

日本でもヨーロッパでもアメリカでも、今後国の予算で全ての社会福祉を賄うことは不可能のようです。この意味では、ロータリークラブ及び民間の団体の役割は益々大きくなると思われます。

7 原発事故は別にしても、東北大震災では、マンションの価格等について、中部地方でも影響が出ています。

資料3でも明らかですが、特に液状化の予想される地盤の軟弱を推定される地域は大幅下落となっています。中部地方においても地盤の軟弱な場所、従前に沼があったとか池であったのを埋め立てたとかの場所は調査すれば明らか、かつ地盤の調査もかなり資料がありますが、そのような場所は地価も含め下落することになります。

今、東北の津波被災地では、都市計画が進められています。その案の骨子は海岸近くでは、市場や工場の立地とし、中間に道路や商業施設の立地として、高台に住宅を建設するという計画です。もともとの高台に住宅を建設するという計画ですから、液状化の心配もありません。

しかし、計画はスムーズに進めそうにもありません。三陸海岸に面した住居用地としての高台は、その多くに縄文時代の住居の遺跡があるため文化財保護法により、遺跡の発掘調査が終了しない限り宅地としての利用ができないからです。

今から6000年程前、縄文時代中期では、東日本に20万人、西日本に4～5万人の縄文人が生活していたと言われています。どうも東北の三陸海岸に居住していた縄文人の都市計画は、高台に居住地を設けることでした。以前、東北で海岸近くに住居の規模とは一致しない、大

きな貝塚があるとのことで考古学者の間で議論されていましたが、居住地と貝を処理する縄文時代の工場とが区別され設置されていたと思います。

縄文時代の都市計画と現在これからの、三陸海岸での都市計画と何故一致するのでしょうか。

1万2000年程前、地球最後の氷河期が終わり、紀元前7000～8000年前は、現在の日本の海岸線という海水位も今と変わりがないとのことです。

別紙資料1を見て下さい。これは文字による記録で残された三陸海岸での地震及び津波被害です。

貞観11年(896年)から約600年間は記録にありませんが、本年3月11日の大震災まで22回、今回をいれて23回で、約50年間に1回の割合です。10メートルを超える津波が何日も襲って来ています。明治29年の震災の津波の被害で東北では、この下に家を建てるなど彫り込んだ石碑が建てられており、今回その石碑の上には今回の津波も到達しなかったとのことです。

数千年間に縄文人は繰り返し地震と津波の被害を受けており、そのため居住地を高台にしたものと思われる。

平成の時代に今我々がやっと過去の教訓に学び、高台に居住しようとしています。

8 福島原発は最大5.7メートルの津波を推定していたとのことです。縄文人は10～20メートルの津波を予想して高台に居住地建をもっていきました。これは考古学上何年も前から発見され、発掘を予定されていました。

貞観11年の地層をボーリングしたところ、内陸の3～5キロメートルのところまで海砂が発見され、かなりの高さの津波が襲ってきていたことも既に何年も前から判明していました。

つまり、三陸海岸では、50年間に一度は10メートルを超える大津波が襲っていることは客観的事実として把握されていたこととなります。それに反し、原子力安全保安院は、「最大5.7メートルの津波は科学的な根拠がある」と主張していたこととなります。

9 これから明らかなことは、政府及び関連機関に国民全ての安全を委ねることはできないということです。格別の災害復興予算も必要ですから、これからの政府は通常の予算をカットしなければなりません。

より小さな政府ということになり、民間でできることはすることになります。

ロータリークラブ等、民間の団体を含めた民間で考え、政府に委ねておけないことは、民間で行う必要があると思います。又、政治に対し、更なる監視が必要なようです。

益々、ロータリークラブは重要な役割を社会で果たすことが求められています。



●一言ご挨拶



地区副幹事 倉地伸幸

分区幹事 白藤憲雄



第2回クラブアッセンブリ議事録

平成23年9月8日(木)13:40～

名古屋クレストンホテル クラウンルーム

出席者 三浦和人G補佐、倉地伸幸地区副幹事、白藤憲雄分区幹事

長谷川、藤田、安江、石井、後藤、松尾、田島、水野、高山、成田、柴田達志、大岩、西川、岩田、磯部、堀江、立石

議題

1. 2011-12 年度各委員会からの報告
2. ガバナー補佐講評



ロータリーニュース

(ROTARY JAPAN WEB より抜粋)

＝読み書きができるように(識字率向上)＝

日本では、読み書きができるということは当たり前のことのように思われています。しかし、地球上には読み書きができない人たちがたくさんいるのです。読み書きができなければ、良い仕事を見つけることができず、貧しい暮らしを余儀なくされますが、そればかりではありません。例えば、薬の飲み方が書いてあっても読むことができないので、どのように飲んだらいいのかわからないのです。

ロータリーでは、全世界のすべての人たちが、読み書きができるよう、識字率が向上するように、さまざまな活動をしています。発展途上国のへき地の村に学校を建てたり、教科書や鉛筆、ノートなどを送ったりしています。文字が読めないのは子どもたちばかりではありません。成人、特に女性に、文字を理解できない人がたくさんいます。おおかさんが読み書きできるようになると、その子どもたちに教えることもできるし、家計を支えるための仕事に就くこともできるようになります。このような理由から、ロータリーでは、成人女性に対する教育も支援しています。

オーストラリアの原住民であるアボリジニの人たちに英語を教えるため、同国のリチャード・ウォーカー博士がCLE(Concerned Language Encounter)という言語教育法を開発しました。ウォーカー博士はロータリアン(ロータリークラブの会員)です。CLEというのは、例えば、子どもたちなら画用紙からお面をつったり、人形をついたりという簡単な作業をしながら文字を教えていきます。成人の女性なら、料理や裁縫、手工芸といった実用的な、そして収入にも結びつくようなものを取り上げて、そういった作業をしながら文字を学んでいきます。楽しいこと、実益に結びつくようなこととともに文字を学ぶことができるので、途中で挫折する人が非常に少ないといわれています。また、費用も少なく、短い期間で学ぶことができます。したがって、多くの国のロータリアンたちは、この教育法を使って、多くの子どもたちや成人女性に文字を教えたり、先生の育成をしたりしています。文字が読めないと良い仕事に就くことができず、生活は貧しくなります。貧しいが故に、その子どもたちは学校に通うことができず、文字を覚えることもできません。そして、良い仕事を見つけることができず、貧しい暮らしを強いられます。こうした貧困の連鎖を断ち切るためにも、ロータリアンたちは、世界中のいろいろな地域で、すべての人たちが読み書きができるよう、活動を続けています。

☆☆例会のご案内☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◎9月15日(木) 第780回例会 例会変更

「親睦夜間例会＝落語を楽しむ会＝」18:30～

◎9月22日(木) 第781回例会

「第4回クラブフォーラム＝新世代奉仕＝」

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆